

平成29年度 学習指導計画書

教科	家庭	科目・単位	家庭基礎・2単位
学科類型	人間総合科	学 年	第1学年
教科書	パートナーシップでつくる未来 新家庭基礎 (実教出版)		
副教材			
学習目標	人の一生と家族・家庭および福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。		

学習内容

学期	学習内容	学習のねらいと指導上の留意点
1	第1編 人とかかわって生きる 第1章 生涯発達と家族 第2章 子どもとかわる 1 子どもを知る	<ul style="list-style-type: none"> ・自分を見つめさせ、自分らしい生き方について考えさせる。 ・家族・家庭の意義や機能について理解させる。 ・家族に関する法律について理解させる。 ・子どもを生み育てること・乳幼児保育の重要性を理解させる。
2	2 発達のすばらしさ 第3章 高齢者の生活と福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・親となる責任を自覚させる。 ・高齢社会の現状を理解させる。 ・社会福祉制度、家庭と地域の役割について理解させる。
3	第2編 生活をつくる 第1章 食生活をつくる 第2章 衣生活をつくる 第3章 住生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の機能、栄養素の働き、望ましい食べ方について理解させる。 ・衣服の機能について理解させ、望ましい衣生活のありかたについて理解させる。 ・住居の機能を理解させる。
4	第3編 消費者として自立する 第1章 消費行動を考える 第2章 経済的に自立する。	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者としての責任を自覚させるとともに消費者被害の解決方法を理解させる。 ・人生設計と経済設計について考えさせる。

平成29年度 学習指導計画書

教科	家庭	科目・単位	子どもの発達と保育・2単位
学科類型	人間総合科	学 年	第1学年
教科書	・子どもの発達と保育（実教出版）・家庭基礎（実況出版）		
副教材			
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の発達の特徴を理解し、乳幼児の生活と保育などに関する知識と技術を習得する。 ・子どもの健全な成長に関心をもち、子どもに関わる意欲や能力、実践的な態度を身に付ける。 		

学習内容

学期	学習内容	学習のねらいと指導上の留意点
1	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達の特徴 <ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達 乳幼児期の特徴 ・発達と保育環境 <ul style="list-style-type: none"> 発達と保育環境の関わり ・児童観と発達観 <ul style="list-style-type: none"> 外国の児童観と日本の児童観 今日の児童観・発達観 子どもの権利と福祉 ・子どもの発育 <ul style="list-style-type: none"> 胎児の発育発達 乳幼児の身体的特徴 乳幼児の生理的特徴 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の発達に関心を持ち、乳幼児期が人間の発達の基礎を培う時期であることを理解する。 ・乳幼児期は、親を中心とする身近な人とのかかわりによって心が安定し、考え方、感じ方、行動の仕方などが発達していくことを理解する。 ・児童観・発達観は時代背景によって変化していることを知る。 ・子どもの人権が保障されるようになったことを理解する。 ・胎児の発育について理解し、生命誕生にかかわる母体環境の重要性を知る。 ・乳幼児の身体的発育の特徴や生理的特徴を学び、養護の重要性を理解する。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発育 <ul style="list-style-type: none"> 発育の評価 ・保育体験・妊婦体験実習 <ul style="list-style-type: none"> 抱っこ・授乳・オムツのあて方・着脱衣・沐浴・妊娠後期体験 ・子どもの精神発達 <ul style="list-style-type: none"> 運動機能と感覚機能の発達 知的発達 	<ul style="list-style-type: none"> ・発育の評価方法を学び、乳幼児期は発育の個人差が大きいことを理解する。 ・子どもの身体的な特徴に配慮し、養護する適切な方法を体験的に学ぶ。 ・発達における方向性や順序性の共通性を理解する。 ・精神発達の特徴を学び、乳幼児期が人格形成上重要な時期であることを理解する。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの生活 <ul style="list-style-type: none"> 子どもの成長と生活 子どもと遊び ・保育体験実習の準備 <ul style="list-style-type: none"> 保育実習計画 贈り物制作 実習の留意点 保育実習 反省と感想 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の言語や情緒、社会性の発達は、保育者の働きかけと環境づくりが大切であることを理解する。 ・乳幼児の生活の特徴を学び、発育、発達に応じた養護が必要であることを理解する。 ・保育体験実習を通じて、3、4、5歳児の発達段階を確認するとともに、幼児との触れあい方を体験的に学ぶ。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・VTR さくらんぼ坊やⅡ・Ⅲ 視聴 ・子どもの精神発達 <ul style="list-style-type: none"> 言葉の発達 情緒の発達 社会性の発達 ・親になることを考えよう <ul style="list-style-type: none"> 子どもの人間形成と親の役割 子どもを生み育てるということ ・健やかに育つ環境 <ul style="list-style-type: none"> 子どもが育つ環境 出産と子育てのための社会的支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児は遊びを通して発育、発達することを学び、保育者として発達に合わせた遊びを提供することの重要性を認識する。 ・現在の子どもを取り巻く環境を知り、子どもが育つ環境を整えることの重要性を認識する。 ・子育てのための国や地域の社会支援について理解する。

平成29年度 学習指導計画書

教科	家庭	科目・単位	フードデザイン・2単位
学科類型	人間総合科	学 年	第1学年
教科書	「フードデザイン」(実教出版)		
副教材	「オールガイド 食品成分表」(実教出版)、「家庭基礎」(実教出版)、「調理ブック」(実教出版)		
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食を取り巻く現状を理解し、健康な食生活についての課題を考えることができる。 2. 栄養及び食品については、献立作成や調理に役立つように関連して学び、知識と技術が日常の食生活に応用できる。 3. 食生活を栄養の面に加えて、嗜好を満たし人間関係の円滑化など精神的な役割や文化的な意義などと合わせて学習することにより、食材を適切に選択し、総合的に計画・実践することを目指す。 4. 食物調理技術検定4級を通して、基礎的・基本的な調理の知識・技術を身につける。 		

学習内容

学期	学習内容	学習のねらいと指導上の留意点
1	<ul style="list-style-type: none"> ・「食べる」とは ・栄養と栄養素 ・炭水化物の機能と代謝、多く含む食品 ・きゅうりの切り方、炊飯を主とした調理実習 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの食生活の現状を把握し、健康な食生活についての課題を考える。 ・基本となる栄養素の炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、無機質の機能の概要および水の生理的機能について理解させる。 ・食生活と生活習慣病との関わりや各栄養素を多く含む食品などを取り上げ、食事計画や献立作成に活用できるようにする。 ・米について、栄養、食品、調理の観点から学習し、米飯食の大切さを学ぶ。 ・調理の基本である計量、炊飯の方法を学ぶ。 ・きゅうりの輪切りの練習を通して、調理技術の基本である正しい包丁の握り方、姿勢、手の動かし方などを習得する。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・食物検定4級の実施 ・脂質の機能と代謝、多く含む食品 ・たんぱく質の機能と代謝、多く含む食品 	<ul style="list-style-type: none"> ・単純脂質のなかの中性脂肪構成と脂肪酸の種類を取り上げる。植物性油脂・動物性油脂など実際の食品の例を示しながら理解させる。 ・たんぱく質の構成とアミノ酸価について学ぶ。 ・たんぱく質を多く含み、日常よく使用される食品として魚介類・肉類・卵・大豆を取り上げ、食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化などについて理解する。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・調理実習 ・ビタミンの機能と代謝、多く含む食品 	<ul style="list-style-type: none"> ・脂溶性ビタミンと水溶性ビタミンに分類し、多く含む食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化などについて理解させる。食品の調理による成分の変化として、ビタミンの損失について理解させる。 ・計量、炊飯、混合だしのとり方など調理知識の基礎を再確認する。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・調理実習 ・無機質機能と代謝、多く含む食品 ・食事摂取基準と食品摂取の目安 ・食品の表示と選択・購入 	<ul style="list-style-type: none"> ・多量ミネラルと微量ミネラルに分類し、特に多量ミネラルのナトリウム、カルシウム、リン、微量ミネラルの鉄の代謝について学ぶ。体内で効率的に利用するための調理法について取り上げ、食事計画や献立作成に活用できるようにする。 ・日本人の食事摂取基準を理解し、摂取すべき食品と量を知り、食のバランスについて学ぶ。 ・食品衛生と安全の問題、食品の生産、流通などの現状を日本の食料自給率の向上や地産地消の観点も取り入れて学ぶ。

平成29年度 学習指導計画書

教 科	家庭	科目・単位	ファッション造形基礎・2単位
学科類型	人間総合科	学 年	第1学年
教科書	家庭基礎 パートナーシップでつくる未来 (実教出版)		
副教材	ファッション造形基礎 (実教出版)		
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 被服製作に関して、構成や材料の種類、特徴など基礎的・基本的な知識を習得させる。 2. 基礎的・基本的な縫製技術を習得し、積極的に被服製作に活用することができる。 3. 衣生活の身近な課題から、問題意識をもって学習に取り組む態度を養う。 4. すべての人にとってよりよい衣生活を実現しようとする態度を養う。 		

学習内容

学期	学習内容	学習のねらいと指導上の留意点
1	<ul style="list-style-type: none"> ・衣生活をつくる ・人と衣服のかかわり ・ライフステージと衣服 ・衣服の機能 ・家庭科被服製作技術検定4級に向けての基礎縫い 	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の機能について理解させ、それぞれに適した衣生活のありかたについて理解させる。 ・基礎的・基本的な縫製技術を習得させる。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・衣生活をつくる ・衣服素材の種類 ・繊維、糸、布 ・衣服素材の性能 ・家庭科被服製作技術検定4級実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・被服材料としての繊維、糸、布の種類とその特徴について理解し、用途に応じた被服材料の選択ができるようにする。 ・被服材料としての繊維、糸、布の性能について理解し、用途に適した材料性能を考えさせる。 ・基礎的・基本的な縫製技術を習得させる。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・衣生活をつくる ・衣生活の管理 ・衣生活と資源・環境 ・すべての人が快適な衣生活をおくる ・ハーフサイズボディ実習 	<ul style="list-style-type: none"> ・被服それぞれに適した管理の方法について理解し、より良い状態で長く着用が出来るように主体的に取り組むことができるようにする。 ・資源の有効利用の観点から生涯を見通した衣生活計画が考えられ、主体的に営むことができるようにする。 ・ハーフサイズボディを使用して、グループごとにファッションデザインを作り上げさせる。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・被服製作 	<ul style="list-style-type: none"> ・習得した技術を活用し、簡単な作品（巾着）を製作させる。

平成29年度 学習指導計画書

教科	家庭	科目・単位	家庭基礎・2単位
学科類型	普通科Ⅱ類	学 年	第2学年
教科書	パートナーシップでつくる未来 新家庭基礎 (実教出版)		
副教材			
学習目標	人の一生と家族・家庭および福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。		

学習内容

学期	学習内容	学習のねらいと指導上の留意点
1	第1編 人とかかわって生きる 第1章 生涯発達と家族 第2章 子どもとかわる 1 子どもを知る	<ul style="list-style-type: none"> ・自分を見つめさせ、自分らしい生き方について考えさせる。 ・家族・家庭の意義や機能について理解させる。 ・家族に関する法律について理解させる。 ・子どもを生み育てること・乳幼児保育の重要性を理解させる。
2	2 発達のすばらしさ 第3章 高齢者の生活と福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・親となる責任を自覚させる。 ・高齢社会の現状を理解させる。 ・社会福祉制度、家庭と地域の役割について理解させる。
3	第2編 生活をつくる 第1章 食生活をつくる 第2章 衣生活をつくる 第3章 住生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の機能、栄養素の働き、望ましい食べ方について理解させる。 ・衣服の機能について理解させ、望ましい衣生活のありかたについて理解させる。 ・住居の機能を理解させる。
4	第3編 消費者として自立する 第1章 消費行動を考える 第2章 経済的に自立する	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者としての責任を自覚させるとともに消費者被害の解決方法を理解させる。 ・人生設計と経済設計について考えさせる。

平成29年度 学習指導計画書

教科	家庭	科目・単位	家庭基礎・2単位
学科類型	普通科I類	学 年	第2学年
教科書	パートナーシップでつくる未来 新家庭基礎 (実教出版)		
副教材			
学習目標	人の一生と家族・家庭および福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。		

学習内容

学期	学習内容	学習のねらいと指導上の留意点
1	第1編 人とかかわって生きる 第1章 生涯発達と家族 第2章 子どもとかわる 1 子どもを知る	<ul style="list-style-type: none"> ・自分を見つめさせ、自分らしい生き方について考えさせる。 ・家族・家庭の意義や機能について理解させる。 ・家族に関する法律について理解させる。 ・子どもを生み育てること・乳幼児保育の重要性を理解させる。
2	2 発達のすばらしさ 第3章 高齢者の生活と福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・親となる責任を自覚させる。 ・高齢社会の現状を理解させる。 ・社会福祉制度、家庭と地域の役割について理解させる。
3	第2編 生活をつくる 第1章 食生活をつくる 第2章 衣生活をつくる 第3章 住生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の機能、栄養素の働き、望ましい食べ方について理解させる。 ・衣服の機能について理解させ、望ましい衣生活のありかたについて理解させる。 ・住居の機能を理解させる。
4	第3編 消費者として自立する 第1章 消費行動を考える 第2章 経済的に自立する。	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者としての責任を自覚させるとともに消費者被害の解決方法を理解させる。 ・人生設計と経済設計について考えさせる。

平成29年度 学習指導計画書

教科	家庭	科目・単位	生活産業基礎・2単位
学科類型	人間総合科	学 年	第2学年
教科書	生活産業基礎 (実教出版)		
副教材			
学習目標	ヒューマンサービスに関する生活産業や、関連する職業への関心を高め、必要な知識と技術を進んで習得し活用する意欲と態度を育てる。		

学習内容

学期	学習内容	学習のねらいと指導上の留意点
1	<ul style="list-style-type: none"> 生活産業について ヒューマンサービス関連分野の産業と職業 	<ul style="list-style-type: none"> 生活産業とは何か理解し、社会の変化による生活産業の発展について考察する。 ヒューマンサービスについてのさまざまな職業を知り理解を深める。 ヒューマンサービスに携わる仕事について理解する。実際にヒューマンサービスに携わっている方(看護師・保育士等)を招いて講演していただき、さらに理解を深める。
2	<ul style="list-style-type: none"> 食生活関連分野の産業と職業 	<ul style="list-style-type: none"> 食生活の変化と生活産業の関わりについて理解し、食品産業の発展について考察する。 食生活関連産業の職業と資格を知り、理解を深める。 実際にヒューマンサービスに携わっている方(パティシエや管理栄養士等)を招いて講演していただき、さらに理解を深める。
3	<ul style="list-style-type: none"> 衣生活関連分野の産業と職業 住生活関連分野の産業と職業 	<ul style="list-style-type: none"> わが国のファッションビジネスの始まりについて理解し、多様化したライフスタイルに応じたファッションビジネスについて考えることができる。 衣生活関連産業の職業と資格を知り、理解を深める。 生活課題と住まいの関連を知り、現代の生活に応じた住まいについて考えることができる。 住生活関連産業の職業と資格を知り、理解を深める。
4	<ul style="list-style-type: none"> 職業生活と自己実現 家庭生活に関わる産業について調査・発表 	<ul style="list-style-type: none"> 生活産業のスペシャリストへの道を歩むうえで、その基礎である職業・勤労の意義について考える。 職業を通して、よりよく自己を生かすとはどういうことか考察する。 1学期より学習してきた「生活産業に関わる仕事」について、調査しまとめ、発表する。

平成29年度 学習指導計画書

教科	家庭	科目・単位	フードデザイン・2単位
学科類型	人間総合科	学 年	第2学年
教科書	フードデザイン (実教出版)		
副教材	オールガイド食品成分表 (実教出版)	調理BOOK (実教出版)	
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次のフードデザインで学習した内容をふまえて、食事の意義・役割、栄養や食品、調理の手法、料理様式・テーブルコーディネートなどの知識を習得し、実習に生かすことができる。 ・基本的な調理器具や、調理の手法の基礎理論を確実に理解することにより、様々な食品に対する適切な調理ができる。 ・実習の食品選択と調理において、食品の多様化の中で食中毒・衛生についても安全な食生活を営むことができる。 		

学習内容

学期	学習内容	学習のねらいと指導上の留意点
1	<ul style="list-style-type: none"> ・実習記録の取り方 ・きり方練習 ・実習①ホエイ飯・清川鵪鶉 ・実習②サンドイッチ・ミルクシェイク ・実習③いなり寿司・うすくず汁・水ようかん ・実習④八宝菜、粟米湯 ・実習⑤スパゲティミートソース・プリン 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に調理するための留意点を理解する。 ・調理理論の知識の習得を確実にするための実習レポートの重要性を認識する。 ・果物の特徴を理解し、飲み物を作る。 ・中華料理の軽食を調理する。・中華料理の知識を習得する。 ・パンを使った軽食を調理する。 ・酢飯の作り方、寒天の扱い方を理解し調理する。 ・イカの取り扱い、でんぷんの調理上の特性を理解する。 ・パスタの種類やスパゲティのゆで方を知り、調理に生かすことができる。 ・卵の調理性を理解する。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・調理実習⑥ロールスポンジケーキ ・実習⑦麻婆豆腐・棒棒鶏・杏仁酥 ・VTR「包丁」 ・実習⑧ハンバーグ・ポテトサラダ・かぼちゃのポタージュ ・実習⑨炊き込みご飯・さばの味噌煮・澄まし汁 ・切り方テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・食品を安全で美味しく調理するための基本的な知識と技術を身に付ける。(夏季休暇中の課題) ・卵の気泡性を理解し、スポンジケーキを調理する。 ・ロールケーキの作り方を習得する。 ・包丁の種類や扱い方を理解し、食材に応じた包丁の選択や切り方ができる。 ・マヨネーズの材料と配分、調理の留意点について理解する。肉、イモの調理上の特性を理解して調理する。 ・炊き込みご飯、魚の煮物の調理上の留意点について理解し調理する。 ・切り方の名称を理解し、正しく食材を切ることができる。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・海外の料理の調査 ・調理実習⑩魚の三枚おろし甘酢あえ・スープ・ねぎもち ・調理実習⑪ポテトコロッケ・クラムチャウダー ・調理実習⑫あんの炊き方・どらやき ・実験「果汁グミ」 	<ul style="list-style-type: none"> ・他国の食文化に興味を持ち、異文化を理解しようとする。 ・中華調味料と香辛料の種類と特徴を知る。 ・中華料理のサービスとマナーについて理解する。 ・揚げ物の調理をする。 ・アサリの扱い方、乳製品の特性、卵の希釈性について理解し、調理に活用する。 ・あんのたきかた、小豆の処理の仕方を学ぶ。 ・ゼラチンの成分と濃度、性質について学ぶ。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・調理実習⑬鍋貼・四宝湯 ・調理実習⑭天ぷら・かぼちゃのそばろあんかけ、茶わん蒸し ・調理実習⑮ロールキャベツ・ジャーマンポテト・マドレーヌ ・フラワーアレンジメント講習 ・りんごの皮むきテスト ・調理実習⑯自由献立 	<ul style="list-style-type: none"> ・小麦粉の性質と調理上の特徴を理解し調理する。 ・天ぷら衣の作り方を知り、調理することができる。 ・卵液の凝固の理論を学び、茶わん蒸しを調理する。 ・キャベツの栄養的効果について知る。 ・玉ねぎの成分と加熱による変化を知り、料理に応じた使い方ができる。 ・テーブルコーディネートの必要性を理解し、豊かな食生活を演出する技術を習得する。 ・フラワーアレンジメントの技術を身に付ける。 ・基礎的な包丁技術を習得する。 ・一年間で得た知識や技術から、献立を作成し、実際に調理することができる。

平成29年度 学習指導計画書

教 科	家庭	科目・単位	子どもの発達と保育・2単位
学科類型	人間総合科	学 年	第2学年
教科書	子どもの発達と保育（実教出版）		
副教材			
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の発達の特徴を理解し、乳幼児の生活と保育などに関する知識と技術を習得する。 ・子どもの健全な成長に関心を持ち、子どもに関わる意欲や能力、実践的な態度を身に付ける。 ・保育に関する専門的な知識や技術を習得し、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を育てる。 		

学習内容

学期	学習内容	学習のねらいと指導上の留意点
1	<ul style="list-style-type: none"> ・生活と養護① 食事・衣服 ・保育の必要性和意義 保育とは 人間形成と保育 保育の目標 ・指導の原理 乳幼児にふさわしい生活の展開 遊びを生かしていく保育 環境を整える保育 一人ひとりに応じる指導 ・家庭保育と集団保育 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の食生活は発育や発達に及ぼす影響が大きいことを学習し、母乳栄養や離乳食の重要性を理解する。 ・乳幼児の衣服や寝具について、身体的特徴を踏まえ、何を選択したら良いか理解する。 ・保育の目標は、適切に養護しながら教育的に関わる事であり、子ども自身の成長・発達を援助、養護することであると理解する。 ・子どもが育つ環境の変化を資料などを基に学び、子どもにとって望ましい環境とは何かを考える。 ・家庭保育と集団保育のそれぞれの特徴や役割を学び、子どもの成長発達に両方が必要であることを理解する。 ・幼稚園と保育所・認定こども園について学び、集団保育の課題について理解する。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習 実習記録 ・人間関係の発達 親子関係と子どもの発達 人間関係のひろがり ・絵本制作 計画 制作 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期は、特に基本的人間関係の樹立のために「愛着」が重要であり、子どもの「泣く」「笑う」などの行動に適切にこたえることの大切さを理解する。 ・家族や友達など多くの人とのかかわりによって人間関係を広げ、自立し社会的な態度を身につけていくことを理解する。 ・乳幼児の情操教育の大切さと、絵本が子どもの心の発達にどのように影響を及ぼすかを探る。 ・発達にあった絵本選びができ、子どものための絵本やおもちゃを制作する態度と技術を身につける。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習 絵本の読み聞かせ (自己活動⇔園児活動) ・生活と養護② 睡眠 排せ ・健康管理と事故予防 日常の健康管理 病気の看病と予防 事故の防止と応急処置 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の生活の特徴を学び、健康を保持増進し順調な成長を促す上で、発育・発達に応じた養護が必要なことを理解する。 ・日常の健康状態の観察など、乳幼児の健康を守るための保育者の役割を理解する。 ・乳幼児の病気の特徴や定期健康診査、予防接種などについて理解する。 ・乳幼児の成長段階における事故の実態と原因などを学習し、安全教育のために保育者が努めることを理解する。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・生活と環境 生活環境の変化 よりよい生活環境を目指して ・児童福祉 意義 法律 機関 施設 ・児童家庭福祉 社会的支援の必要性 子育て家庭への支援 少子化対策と子育て支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童を取り巻く環境の変化や子育て支援の現状を知り、子育て家庭に対する社会的支援を充実させる必要があることを理解する。 ・子育て支援の課題と展望を考える。 ・児童福祉の理念や法律、制度について学び、単に保護するのみだけではなく、次代を担う児童の健全育成を目的としていることを理解する。 ・児童相談所などの児童福祉機関や施設の種類と目的を学び、児童と家族に対する社会的援助について理解する。

平成29年度 学習指導計画書

教科	家庭	科目・単位	食品・3単位
学科類型	人間総合科 ライフデザイン類型	学 年	第2学年
教科書	フードデザイン (実教出版)		
副教材	イラスト調理 BOOK (実教出版)、2016 オールガイド食品成分表 (実教出版)		
学習目標	食品の特性および栄養素の機能と代謝、各ライフステージにおける栄養、労働、スポーツと栄養などに関する知識を習得させ、健康の維持・増進を図る能力と態度を育てる。		

学習内容

学期	学習内容	学習のねらいと指導上の留意点
1	<p>2章 食生活と健康</p> <p>1.乳児期の栄養計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田の草取り・水の管理 <p>2.幼児期の栄養計画</p>	<p>乳児期・幼児期の栄養計画・注意点について理解を深める。</p> <p>食品の摂取により、人間は栄養をどのように取り入れていくか、食物は体内でどのように消化・吸収され、活用されていくかを把握させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米ができるまでの一連の作業を理解するとともに、勤労の喜びや苦勞を知ることで、食物とそれらを作っている人々への感謝の気持ちを育てる。 <p>【調理実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・離乳食 (乳児期) ・豆腐作り
2	<p>3.学童期の栄養計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田の草取り・水の管理 	<p>生活や身体の成長の変化が著しい時期の栄養計画について把握し、栄養上の注意点について把握させる。</p> <p>【調理実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お弁当作り (学童期) <p>米ができるまでの一連の作業を理解するとともに、勤勞の喜びや苦勞を知ることで、食物とそれらを作っている人々への感謝の気持ちを育てる。</p>
3	<p>4.青年期の栄養計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲刈り・はさ掛け ・家庭科食物調理検定 3級練習 <p>5.成人期の栄養計画</p>	<p>青年期の栄養上の注意点を把握し、運動量や身体発育の変化について理解を深める。</p> <p>【調理実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お弁当作り (青年期) ・ウインナー作り <p>稲刈りから、精米までの仕方を学び、技術を習得する。 「米作り」に携わることで、農作物の栽培に対する関心を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検定実習 <p>生活習慣病を意識した食生活の改善、妊婦・授乳婦の栄養の注意点を理解する。</p>
4	<p>6.高齢期の栄養計画</p>	<p>高齢期の食生活のポイントを理解し、症状に合わせた食事方針を理解する。</p>

平成29年度 学習指導計画書

教 科	家庭	科目・単位	ファッションデザイン・2単位
学科類型	人間総合科ファッションデザイン類型	学 年	第2学年
教科書	ファッションデザイン (実教出版)		
副教材			
学習目標	ファッションに関わる色彩や発想の方法、服飾史を学び、生徒それぞれが思いを形にする力を身に付ける。またそれらを自分で発表することができる。		

学習内容

学期	学習内容	学習のねらいと指導上の留意点
1	<ul style="list-style-type: none"> 色彩理論 (色彩原理・電磁波と色彩・色の三属性・目の構造) きものデザインコンクール (テーマ発表・ラフスケッチ発表とディスカッション・最終発表) 	<ul style="list-style-type: none"> 色彩の特性や三属性とのかかわり、また人間の目の構造などから基本的な色彩の原理を理解する。 色彩を活かした着物のデザインをテーマを設定し考案させる。デザイン画として完成させ、出展する。
2	<ul style="list-style-type: none"> 色彩理論 (色彩調和・色彩心理) 色彩コーディネート実習 日本服飾史 	<ul style="list-style-type: none"> 色彩の組み合わせに関して基本的な知識を習得し、それをデザインに活かせるよう応用力を培う。 日本の特有の服飾文化について、その特徴と変遷歴史的背景、気候、風土などの観点から日本人と衣服とのかかわりを知る。
3	<ul style="list-style-type: none"> 日本服飾史 文化式原型の展開(1/5) <ul style="list-style-type: none"> スカート・身ごろ 展開演習 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の特有の服飾文化について、その特徴と変遷歴史的背景、気候、風土などの観点から日本人と衣服とのかかわりを知る。 洋服の基礎となる文化式原型の特徴とその展開方法を学び、3年次の実習への足掛かりとする。
4	<ul style="list-style-type: none"> 日本服飾史 文化式原型の作成 (採寸・作成) 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の特有の服飾文化について、その特徴と変遷歴史的背景、気候、風土などの観点から日本人と衣服とのかかわりを知る。 自らの体型にあった原型を作成し、3年次の実習で使用できるようにする。

平成29年度 学習指導計画書

教 科	家庭	科目・単位	ファッション造形・3単位
学科類型	人間総合科ファッションデザイン類型	学 年	第2学年
教科書	ファッション造形基礎 (実教出版)		
副教材			
学習目標	ハーフパンツおよび女物単衣長着の製作を通してファッション造形の知識や技術を習得させ、ファッション製品を創造的に製作する能力と態度を育てる。		

学習内容

学期	学習内容	学習のねらいと指導上の留意点
1	ハーフパンツの製図 ハーフパンツの製作	家庭科技術検定（被服製作）3級の合格を目指す。 検定試験を受験させることで、正確な技術を習得させるとともに、限られた時間の中で完成させることも学ばせる。
2	ハーフパンツの製作に関する理論学習 女物単衣長着の理論 和裁の基礎縫い	被服製作に必要な基礎的な理論をおさえることによって、縫い方の指導に陥らないように留意する。 被服の平面構成に関する理論および洋服とは異なる用具や日本の伝統文化についても理解させる。 洋裁とは異なる様々な縫い方の基本を学習させる。
3	女物単衣長着の製作 (袖・身頃・襟付け)	一部ミシンを使用しながら効率的に製作する方法を習得させる。
4	女物単衣長着の製作 (袖つけ、すそくけ) ブラウスの原型作成	被服の立体構成と平面構成の違いをおさえながら、日本の伝統文化の素晴らしさを理解させる。

平成 29 年度 学習指導計画書

教 科	家庭	科目・単位	服飾手芸・2単位
学科類型	人間総合科	学 年	第2学年
教科書			
副教材	資料プリント		
学習目標	手芸の種類、特徴及び変遷、各種手芸の技法などに関する知識と技術を習得させ、手芸品を創造的に製作し、服飾に活用する能力と態度を育てる。		

学習内容

学期	学習内容	学習のねらいと指導上の留意点
1	・ 刺繍	<ul style="list-style-type: none"> ・ フランス刺繍の技法を使用して、絵や文字を製作する。 ・ 刺繍の歴史や種類などについて理解させる。
2	・ 染色	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハンカチや布地などをさまざまな染料を使用して染める。 ・ 染色の歴史や種類などについて理解させる。
3	・ 編物	<ul style="list-style-type: none"> ・ 棒針を使用して、小物を製作する。 ・ 編物の歴史や種類などについて理解させる。
4	・ 編物	<ul style="list-style-type: none"> ・ かぎ針を使用して、小物を製作する。

平成29年度 学習指導計画書

教科	家庭	科目・単位	リビングデザイン・2単位
学科類型	人間総合科	学 年	第2学年
教科書	リビングデザイン (実教出版)		
副教材			
学習目標	生活と住居、住居の設計、インテリアデザインなどについての知識と技術を習得し、快適な住空間を自ら計画する能力と態度を身に付ける。		

学習内容

学期	学習内容	学習のねらいと指導上の留意点
1	<ul style="list-style-type: none"> ・照明器具の製作 ・インテリアの基本 	<ul style="list-style-type: none"> ・照明器具製作を通じて、自分で設計図を考え、形にする中で個々のインテリアをデザインする能力と態度を育て、木工技術の習得と、室内に適したデザインの考案力を身に付ける。 ・インテリアについての基礎知識を習得し、目的にあった室内計画ができる。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・気候風土と住居の調査 ・色彩の基本 ・各室のインテリア計画 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の住居や、日本の住居について調査し、気候や風土との関係性について考える。 ・演習を通して、色彩がもたらす効果や作用について理解し、生活に応用できる。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の住宅事情 ・家族周期と住居 ・設計とは ・住居の計画 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の住宅事情について調査し、発表する。 ・家族周期を理解し、ライフステージに応じた住環境を整える方法を考える。 ・建築物を完成させるまでのプロセスを把握し、住居計画に必要な基本的知識と技術を習得する。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・透視図を描く ・室内計画 ・3Dマイホームを使って理想の住まいの設計 ・設計した作品のプレゼンテーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・透視図の描き方を通して、インテリアにおける立体的な構造をイメージできるようにする。 ・ライフステージ、目的にあった住居の設計を、3Dマイホームソフトを利用し、設計する技術を習得する。 ・自ら考え、設計した作品の良さを、適切に発表する能力を身に付ける。

平成29年度 学習指導計画書

教 科	家庭	科目・単位	課題研究・2単位
学科類型	人間総合科	学 年	第3学年
教科書			
副教材	百科事典など各種関係図書、および一部インターネット		
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭科に関する分野の中から、自分たちが興味・関心をもち、解決すべき課題を見つける。 2. 課題を解決するために必要な資料を取捨選択し、問題解決の手がかりとする。 3. 専門的な知識と技術を深め、実生活の中で実践する。 4. さらに課題解決のために、可能な方策を考え、今回の取り組みをまとめパワーポイントにより発表する。 5. グループメンバー同士、互いに助け合い協力する。 		

学習内容

学期	学習内容	学習のねらいと指導上の留意点
1	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマとグループを決める。 ・テーマに従って、各種資料を探し、調査・実習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが興味・関心を持っている課題を探り、課題解決のための方法を知るために、調査・研究する。 ・おおよそ必要な資料が収集でき、クラスで各班の研究内容および、それまでの調査結果を発表する。自分の関心のあることだけではなく他の生徒の研究からも学ぶ。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期の調査・研究内容を反省し不十分な点を補う。 ・夏休み中に自宅で行う実習等を考える。 ・中間発表を行い、他の人の研究内容に学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の人の取り組みに学びながら、自分たちの取り組みを反省し、内容を深めるための方法を考える。 ・長期休暇中に、学校では出来なかった実習や、外部の調査・研究について計画を立てる。アンケートを実施する生徒は夏休み等を利用する。 ・自分の取り組みをレジュメにまとめて発表すると共に、他の人の発表に学ぶ。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・中間発表の調査・研究内容を反省し不十分な点を補う。 ・パワーポイントにまとめる ・調査・研究の内容を発表する。他の人の発表に学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中間発表において不足している内容についてさらに深められるように研究を進める。 ・内容をパワーポイントにまとめ、発表原稿を作成する。 ・パワーポイントを使用して発表を行う。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・一年間の取り組みを反省し今後の課題とする。 ・成果の発表。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の人の発表を聞いた事で、自分の1年間の学習を反省し、今後の課題を見出す。 ・研究内容の優れたものは、学習成果発表会での発表を行う。

平成29年度 学習指導計画書

教科	家庭	科目・単位	調理・3単位
学科類型	人間総合科	学 年	第3学年
教科書	フードデザイン新訂版 (実教出版)		
副教材	イラスト調理ブック (実教出版) ビジュアルワイド食品成分表 (東京書籍)		
学習目標	1 行事食・郷土料理・供応料理等の食事の献立調理に必要な知識と技術を習得させる。 2 食生活の充実向上を図るとともに、創造的に調理する能力と態度を育てる。 3 野菜の栽培を通して、食物の大切さを認識する。		

学習内容

学期	学習内容	学習のねらいと指導上の留意点
1	調理の基礎 (復習) 春の献立 こどもの日の献立 御祝いの献立 滋賀の郷土料理 洋食① 中華料理① 畑の整備	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの行事にふさわしい食事の献立調理に必要な知識と技術を習得させる。 潮汁の作り方や旬の食材を用いた調理を学ばせる。 もち米の調理理論を水分の吸水力やその特性から理解させる。 生魚の調理や、食品衛生について実習をとおして理解させる。 魚の下し方の方法と、技術を身に付けさせる。
2	電子レンジを使った料理 五節句について (理論) 七夕の献立 敬老の日の献立 中国料理 野菜の栽培	<ul style="list-style-type: none"> 再加熱以外の電子レンジの様々な使途と使い方を理解させる。 伝統食のいわれを理解させる。 七夕が五節句であることを理解して調理させる。 高齢者食にふさわしい調理法や盛りつけを理解させる。 栽培に必要な知識と実践的態度を育てる。
3	貧血症の食事 クリスマスの献立 おせち料理 七草がゆ 野菜の収穫	<ul style="list-style-type: none"> 伝統食であるおせち料理を理解させて実習させる。 豆腐の調理・飛竜頭の作り方を理解し、揚げ物の最適な油温を理解させる。 季節の食材への理解を深め、旬を活かした調理を理解させる 食品の比重に関してゼラチン調理を通して比重の違いやそれを活かす方法を知る。 皿ではなく弁当箱の限られたスペースにバランスよく、美しく盛り付けることで、盛り付けの技術を向上させる。 クリスマスの供応食の調理を通して、行事に応じた献立を理解する。
4	学年末考査	<ul style="list-style-type: none"> 高度な技術とともに従来の調理法も含め目的に応じて臨機応変に対処できる力を習得させる。それぞれの行事にふさわしい食事の献立調理に必要な知識と技術を習得させる。

平成29年度 学習指導計画書

教 科	家庭	科目・単位	家庭生活・1単位
学科類型	人間総合科	学 年	第3学年
教科書			
副教材	資料プリント、パソコン、他		
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科に関する情報処理に関する知識と、実生活に活用できる技術を身に付ける。 ・進路決定に必要な情報収集と、文章表現、言語表現、などの技術を向上させると共に、一般教養を高める。 		

学習内容

学期	学習内容	学習のねらいと指導上の留意点
1	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事の要約 ・エントリーシートの記入練習 ・履歴書の記入練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの進路選択に関わる資料を読み取り、必要な情報を適切にまとめる力を養う。 ・自らの進路に向けて、自分自身を振り返り、自らに必要な力や自らの長所に気付き、表現する能力を身に付ける。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・エントリーシートの記入練習 ・スケジュール帳を作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科や時事問題についての小論文を書く技術を習得する。 ・エクセルでスケジュールを作成することにより、自らの進学日程を意識し、自己管理能力を身につける。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭経営に関する情報処理 ・学習成果発表会の準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・家計簿や会計処理についての知識と技術を身に付け、情報機器を活用する能力を習得する。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・学習成果発表会の練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間総合科3年間の取り組みを振り返り、自らの成果を他者に伝える能力が身についたか確認する。

平成29年度 学習指導計画書

教科	家庭	科目・単位	生活と福祉・2単位
学科類型	人間総合科	学 年	第3学年
教科書	生活と福祉 (実教出版)		
副教材			
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢期にいたるまでの健康づくりについて考え、ライフステージごとの健康管理について理解する。 ・高齢者福祉に関する法規や制度・サービスについて理解し、介護予防の考え方にもとづき、自立生活支援と介護に関する基礎的な知識と技術を身につける。 ・地域の高齢者の生活に関心をもち、適切な生活支援や介護を考え、福祉の充実と向上を目指す能力を身につける。 		

学習内容

学期	学習内容	学習のねらいと指導上の留意点
1	<ul style="list-style-type: none"> ・健康とは ・高齢社会における健康とQOL ・健康に影響を及ぼす要因 ・ライフステージと健康 ・介護技術 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康について、身体的・精神的・社会的な側面から理解する。 ・単なる寿命の延長ではなく、健康寿命やQOLを高めることが課題であることを理解する。 ・健康の成立要件について理解し、生活習慣と関連づけて考察する。 ・高齢者にみられる心身の変化に対応した基本的な介護技術を習得する。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化の現状 ・高齢者の心身の特徴と病気 ・高齢者の生活課題と施策 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口の高齢化はなぜ起こるのかを理解する。 ・加齢による心身の変化とその特徴を具体的に理解する。 ・高齢者の病気や事故の特徴について理解する。 ・高齢者人口の増大や高齢期の長期化に伴う生活課題を理解する。 ・高齢社会に対する施策を理解し、考察する。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の自立生活支援 ・高齢者支援の法律と制度 ・介護保険制度 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の尊厳とは何かを理解したうえで、介護のあり方を考察する。 ・ノーマライゼーションやユニバーサルデザインなど社会福祉の基本的な考え方を理解する。 ・高齢社会に対応した社会保障や社会福祉制度を理解する。 ・介護保険制度のおもな介護サービスやサービス利用までの流れについて理解する。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者介護 ・高齢者の生活支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防の考え方にもとづいた見守りや支援の重要性について理解する。 ・麻痺、視覚障害者、認知症などがある高齢者の介護を理解する。 ・レクリエーション活動にはどのような種目があるかを理解し、高齢者に応じたレクリエーションを考察する。

平成29年度 学習指導計画書

教科	家庭	科目・単位	子ども文化・2単位
学科類型	人間総合科	学 年	第3学年
教科書	子ども文化（教育図書）		
副教材			
学習目標	子どもと遊び、子どもの表現活動、児童文化財などに関する知識と技術を習得させ、児童文化の充実を図る能力と態度を育てる。		

学習内容

学期	学習内容	学習のねらいと指導上の留意点
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童文化とは何だろう 児童文化財とは 児童文化を歴史から見る ・ 子どもと遊び 遊びと発達 遊びの現状 ・ 遊びと遊具・玩具 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童文化の概念を理解し、歴史の中の子供観を探究する。 ・ 自らの子供時代を振り返り、現在の子供たちに必要な遊びを考え、提案する力を養う。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遊びと伝承 ・ 子どもと表現活動 子どもの表現活動の面白さ 造る・描く 言語表現活動 歌う、踊る、演奏する 表現活動の実際 ・ 子供と文学 語り・紙芝居・絵本 ・ 児童文学・アニメーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝承遊びの良さと問題点について考察し、保育者としての留意点を探る。 ・ 子供の様々な表現活動についての知識を深め、子供の遊びへの関心を引き出すために必要な技術を習得する。 ・ 子供にとって重要である文学について理解を深め、自らその表現者としての技術を研鑽する。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現代の子供の生活と文化 テレビ、キャラクター、ゲーム 子供と年中行事 ・ 子ども文化を支える場 行政による公的な支え方 民間企業による支え方 ・ 子供のための各種施設 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現代の子供の生活の課題を見つけ出し、課題を解決しようとする態度を身に付ける。 ・ 年中行事と保育活動を関連付けて考える力を養う。 ・ 子ども文化を支える施設を理解し、子供の為に活用する力を身に付ける。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども文化実習 子供と関わる前に 子供の観察と子供理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実践活動を通して、子供と関わる時の留意点や、子供にとっての意義を理解し、将来保育者となる意識と技術を身に付ける。

平成29年度 学習指導計画書

教科	家庭	科目・単位	ファッションデザイン・2単位
学科類型	人間総合科ファッションデザイン類型	学 年	第3学年
教科書	ファッションデザイン (実教出版)		
副教材			
学習目標	ファッションに関わる色彩や発想の方法、服飾史を学び、生徒それぞれが思いを形にする力を身に付ける。またそれらを自分で発表することができる。		

学習内容

学期	学習内容	学習のねらいと指導上の留意点
1	<ul style="list-style-type: none"> ・色彩理論 ・きものデザインコンクール (テーマ発表・ラフスケッチ発表とディスカッション・最終発表) 	<ul style="list-style-type: none"> ・色の組み合わせについて理論的に学ぶ。 ・色彩を活かした着物のデザインをテーマを設定し考案させる。デザイン画として完成させ、出展する。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ドレーピング実習 ・日本服飾史 	<ul style="list-style-type: none"> ・色彩の組み合わせに関して基本的な知識を習得し、それをデザインに活かせるよう応用力を培う。 ・日本の特有の服飾文化について、その特徴と変遷歴史的背景、気候、風土などの観点から日本人と衣服とのかかわりを知る。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・西洋服飾史 ・自由作品 	<ul style="list-style-type: none"> ・西洋の特有の服飾文化について、その特徴と変遷歴史的背景、気候、風土などの観点から人類と衣服とのかかわりを知る。 ・衣生活全般を振り返り、衣生活の充実・向上を図ろうとする実践的態度を育てる。 ・自分の取り組みや習得した技術を作品発表を通し表現する。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習成果を個人個人でまとめ、発表する。

平成29年度 学習指導計画書

教 科	家庭	科目・単位	ファッション造形・3単位
学科類型	人間総合科ファッションデザイン類型	学 年	第3学年
教科書	被服製作（実教出版） ファッションデザイン（実教出版）		
副教材			
学習目標	1 衣服の立体構成の原理について学ばせる。 2 ブラウスの製作技術を習得させる。 3 目的に応じた着装の仕方について学び、それを作品として表現できる。		

学習内容

学期	学習内容	学習のねらいと指導上の留意点
1	<ul style="list-style-type: none"> 衣服の立体構成の原理を理解する ブラウスの製作 <ul style="list-style-type: none"> 絵型の作成 採寸 パターン製作 裁断 しるし付け 仮縫い 型紙補正 本縫い 着物デザインコンクール <ul style="list-style-type: none"> テーマに沿った絵型の作成 表現方法の工夫 作品発表 	<ul style="list-style-type: none"> 2年次の浴衣（平面構成）と比較させながら、衣服の構成原理を理解させる。 着用目的に応じたブラウスの絵型を描かせ、着装について理解を深める。 採寸・布の見分け方・しるしつけ・裁断等洋裁の基礎を理解させる。 平面的な布を立体的な人体にそわせるための、ダーツやいせこみの役割を理解させる。 仮縫い・補正等洋裁の基礎を理解させる。 ブラウスの縫製技術を習得させる。 ロックミシンの使用法を習得させる。 衣服の仕上げには、縫うことに加え、アイロン仕上げの重要性を理解させる。
2	<ul style="list-style-type: none"> 自由作品の制作 <ul style="list-style-type: none"> 様々な衣服の中から自分の目的に応じた衣服を考え絵型に起こす 型紙の制作 	<ul style="list-style-type: none"> 着用場面を設定し、着用目的に応じた衣服の絵型を描かせ、着装について理解を深める。 各自のテーマや、ショーの構成等を意識させる。
3	<ul style="list-style-type: none"> 自由作品の制作 <ul style="list-style-type: none"> 布の選定 裁断 しるし付け 縫製 	<ul style="list-style-type: none"> 習得した技術の応用並びに復習をする。 色彩理論を交えた布地の選定をする。 機能や季節に応じた布選びができるよう、繊維や織について復習する。
4	<ul style="list-style-type: none"> 自由作品の仕上げ <ul style="list-style-type: none"> しつけとり アイロンかけ 作品発表 	<ul style="list-style-type: none"> 衣生活全般を振り返り、衣生活の充実・向上を図ろうとする実践的態度を育てる。 自分の取り組みや習得した技術を、学習成果作品発表のファッションショーにて表現する。 ファッションショーの企画運営をさせる。